

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000259), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家(はまなす)), 所在地 (小樽市桂岡11-13), 自己評価作成日 (平成30年12月1日), 評価結果市町村受理日 (平成31年2月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域密着型サービスの意義を理解し、入居されている方々が認知に障害があっても適切な介護を受ける事によって穏やかな生活ができる事を目標にしています。地域の中で長く生活されてきた方々が地域と繋がり、それまでの生活と環境を大切に...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2018\_02\_2\_kihon=true&JigyosyoCd=0172000259-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成31年1月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事参加や慰問等を受け入れ、住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の維持を支援するため、事業所独自の理念を掲げ、共有し、念頭に入れて仕事を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで里の家祭りを開催したり、地域の行事や小学校の行事に入居者と一緒に参加し、地域の方々の各種慰問や地域での買い物時、散歩で近隣の方々とも挨拶を交わす等顔馴染になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、地域の方々からの認知症の相談や見学も受け入れ、桂岡小学校の社会学習の場として活用されている。人材育成の貢献として聾学校実習生や認知症実践者研修の受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、市役所、町内会関係者、包括、家族等の出席を得て、ホームの行事や状況報告し、懸案事項について経過報告を行い、活発な意見交換がなされている。時々入居者様にも参加していただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の各担当窓口には事ある毎に訪問し、里の家便りを持参し事業所として定期的に状況の報告を行なっている。特に福祉課との連絡は密に行ない、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会を作り定期的に委員会を開催し共通認識を図っている。また職員同士がお互いに注意し合える関係を築いている。社会で起きていることを把握し折に触れて話し合いを持っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で虐待防止に関する事を学び周知徹底を図っている。全職員が理解し遵守に向けた取り組みを行い、また、職員同士がお互いに注意し合える関係を築き、小さな身体の変化も見逃さない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護や成年後見制度について研修を行い、理解に努めている。実際に成年後見制度を利用している方も入居者されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金や起こりうるリスク、医療連携体制、退去を含めた事業所の対応可能な範囲等、十分な時間をもって説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置している他、ご家族が運営推進会議に出席した際や、面会時の報告のときに意見を聴くようにし、話しやすい環境作りに努め、直ぐに意見を反映させる様心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	折に触れ個人面談を行ない意見を述べる機会がある。また、毎月行っているユニット会議や全ホーム合同会議にて、意見や要望について話し合い出来る機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員育成につなげるため、色々な研修の機会を与え参加させている。管理者は個人面談等で状況や勤務希望等を把握し、各々がやりがいを持って仕事ができる様に配慮し、休憩室で休憩できる環境も整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を継続的に行っており、毎月資料を配布し、話し合いや研修報告書の提出をしている。資格取得に向けて、職員一人ひとりが学習意欲を持ち学ぶ様働き掛けもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会等の研修に参加したり、地域の同業者等の交流会に参加したりし情報交換を図り地域のサービス向上に努めている。また実習生の受け入れにて交流を持つことによりサービスの向上にも繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と計画作成担当者が自宅等に伺い事前面談をし、生活状況を把握し、本人の求めている事や不安を理解するように努め、スムーズに受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の支援状況の経緯、今迄のサービスの利用状況について聞き、家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしサービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の思い、状況等を確認し、場合によっては医療機関や地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげる等の対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意とする事、好きな事を一緒に行ったり、教えて頂く等の場面作りをし、行事等を一緒に楽しんだり喜怒哀楽の場面づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に日々の暮らしや出来事等状況を伝え情報を共有し、また、年に数回、家族参加の行事の機会をもうけ、一緒に過ごしていただき、一緒に話すことでご家族様との良い関係作りも出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からも情報を得、馴染の場所に行ったり、近所の方と話す機会を作ったり、友人が遊びに来られたりしており、一人一人の生活習慣を可能な限り尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全ての職員が共有し、皆様で楽しく過せる場面作りをする等、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約が終了しても、受診の際に入居者と一緒にお見舞いに行ったり、また退院後の利用可能なサービス提供や再度入居される等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報の他、意思疎通が困難な方含め、日々の関わりの中で行動や表情から汲み取り把握に努め、事あるごとに情報を共有し本人本位のケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでのより良い生活を送る事を説明し、入居時、入居後も生活歴や馴染の暮らし方等を、本人や家族、関係者などから情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの把握をした上で、入居後も日々の観察の中から、一日の生活リズムや身体状況等から本人の全体像の把握に努め支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、全職員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、更新前にご家族に現状を報告、希望等を確認し一緒に介護計画を考え、状況の変化に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々のケア目標を決め、食事・水分量・身体状況及び日々の暮らしの様子や言葉、職員の気づきを記載し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者にとって負担とならない様、通院や送迎、外出、買い物等必要な支援柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて町会長や民生委員の方々とお話しをする機会があり、避難訓練等に参加していただいている。また、地域の行事等に参加したり、慰問もあり楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療を毎週受け、24時間電話対応もしてくれる。また、訪問看護の他、入居者の希望があれば入居後も今までのかかりつけ医を受診している。また、歯科は訪問診療に来ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者を良く知る主治医や看護師、訪問看護師に相談し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し、入院によるダメージを極力防ぐためにご家族と一緒に医師と話しをする機会をもち、ホームでの対応可能段階で、なるべく早く退院できる様対応している。また、退院後の通院にも対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアの経験があり対応出来る準備がある事を伝え、本人や家族の意向を踏まえ、主治医・職員・家族と連携を取り、本人及び家族が安心して終末期を過ごせる様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を定期的に行なっている。また、全ての職員が対応出来る様にし、緊急時対応の各マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・消火器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。また今回の災害で気が付いた必要な備品の追加準備を行った。地域の方々の緊急連絡網があり協力体制も整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議等の折に職員の意識向上を図り、個々に合った誇りやプライバシーを尊重した声掛け、対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に合わせた声掛けをし、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、紙に書いて見て頂いたりし利用者が選択や決定出来る場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調やその日その時の気持ちを尊重し、食事の時間や買い物・散歩等、出来るだけ個性のある柔軟な支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々希望で衣類等購入に行ったり、理容・美容についても、毎月馴染みの理美容院で希望に合わせたカットや毛染め等をしてもらえる様連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談し決めたり、個々の誕生日には好みの食事を提供し、またバイキング形式の食事や合同食事会も行ない食事の楽しみ支援を行っている。一部入居者には下膳や食器拭き等も手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好物を理解しており、入居者個々の状態や様子、タイミング、時間を見ながら対応もし、不足分はおやつ等で補ったりし、楽しんで摂取出来るよう様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じた口腔ケアの手伝いをし、毎食後及びモーニングケア・ナイトケア時に働きかけや支援を行っている。また、口腔内に問題があった場合は歯科医の訪問診療も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のパターンや時間・習慣を把握し、尿意のない利用者にも定期的にトイレ誘導し、個々にあったオムツ等を利用する事で、トイレでの自力排泄に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、食事・水分等に配慮し運動の働きかけをする等、個々に応じた取り組みをしている。また、主治医とも連携を図り薬の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日は目安として決まっているが、その日の体調に合わせて、その他の曜日や入浴、シャワー浴をして頂く等、ゆっくりリラックスして入浴してもらえるよう入浴剤も使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活リズムを把握し、ゆっくりと休息が取れる様支援し、夕方から穏やかに過ぎて頂く様に取り組み、就寝に向けてリズムが安定する様に工夫し、個々のタイミングで就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導もあり、薬の処方箋はいつでも見られる様個々に整理し、職員が内容を把握出来る様にし、変更があった場合も申し送りにて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たみ等、手伝いをお願いし感謝の言葉を伝える様にしている。また、ビデオ鑑賞をしたり慰問や行事、外出、買い物等相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲ではあるが、天気やご本人様の気分や希望に応じて、日常的に散歩やドライブに出掛けたり買い物、外食をし、季節を肌で感じて頂ける様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。機会があれば自販機や買い物等一緒に使える環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話等出来る様支援している。また、手紙等についても機会があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に花壇を整備したりベンチを置いたり、リビングに花や季節の物を飾り、行事の写真を掲示している。また、季節の行事毎の飾り付けをし、旬の食材を使い、季節に合った食事提供する等、五感や季節感を意識的に取り入れる居心地の良い空間作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士で歌や時代劇等のDVD鑑賞する等くつろげるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れたベッド・家具等の生活用品、写真・装飾品等が持ち込まれ居心地の良い居室空間を作っている。利用者のADLに合わせて電動ベッドの利用を行ない、自分のことは自分でできる様、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりやベッド等、居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立へ向けた工夫と考慮をし、場合により会社と話し合い検討し整備していただいている。		